

## 北米放射線学会(RSNA)にて CERTIFICATE of MERIT を受賞しました(2018/11/28)

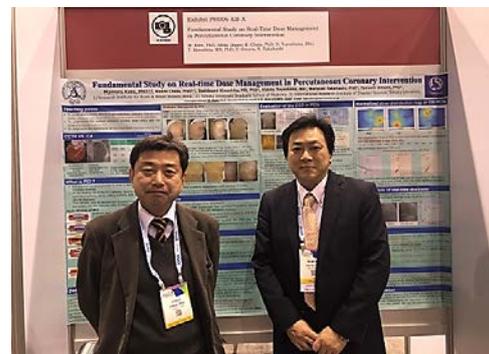
テーマ：放射線防護、医療被曝、線量評価  
場所：米国シカゴ

2018年11月25日～11月30日に、Radiological Society of North America, RSNA 2018 (104<sup>th</sup> 北米放射線学会) が米国シカゴにて開催されました。RSNA は、シカゴのマコーミックプレイスで毎年開催される世界最大の放射線医学関連の総合的な権威ある国際学会です(参加者は例年6万人前後)。当研究所からは、災害医学研究部門 災害放射線医学分野(兼医学部放射線検査学分野)の千田浩一教授や稲葉洋平助教のほか数名が参加しました。研究演題の採択率がとても厳しいなか、当研究室からは6題の演題が採択されました。その中の1演題が、RSNA Exhibit Award "CERTIFICATE of MERIT" を昨年に引き続き受賞することができました。研究発表演題名は「Occupational Radiation Exposure of the Eye Lens in Neurovascular Interventional Physicians」です(筆頭演者は加藤守非常勤講師)。放射線被曝のなかでも、現在特に水晶体の線量評価と被曝防護が世界的に大きく注目されており、当研究報告は脳血管内治療 IVR における水晶体被曝に関して、とても有用な内容を含んでいることが評価されたものと思われます。

なお当研究報告の一部は、原子力規制庁の放射線安全規制研究戦略的推進事業費(研究助成)「水晶体の等価線量限度の国内規制取入れ・運用のための研究:研究代表者、千田浩一」の支援により行われました。今回の研究成果は、日本国内における関係法令(放射線障害防止法など)改正や政策提言へ向けても重要なエビデンスを提供ができると考えます。



RSNA 学会場にて



発表研究演題の一例



受賞演題と加藤守非常勤講師



CERTIFICATE of MERIT の賞状

文責：千田浩一(災害医学研究部門)